

飯伊地区 産業経済動向

No.544 2024/7
(6.8.25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：ユネスコ無形文化遺産に登録された和合の念仏踊り（下伊那郡阿南町・8月16日撮影）	・ P 1
製造業 景況DIは前月からやや改善。当月、先行きともに好転と悪化の声が拮抗	…………… P 2
建設業 7月の公共工事は前年比増加。6月の住宅着工は前年比68%減少	…………… P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から改善。小売業、卸売業の一部で景況感好転の声	…………… P 5
特集 リニア沿線地域研究 中津川市の現状とリニア新幹線	…………… P 6
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	…………… P 12

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみなさまとともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月からやや改善。当月、先行きともに好転と悪化の声が拮抗

当月の製造業の業況判断指数（DI）はプラス2.4で、前月から4.7ポイント上昇。翌月予測はプラス2.4で、前月から変わらず。機械製造では、産業機器分野で好転との声がやや多く、半導体分野では悪化との声が多く好転との声はなかった。食品製造では好転との声がやや多い。全体では小幅な動きとなったが、前月のマイナスからプラスに転じた。先行きの景況感については、機械製造、食品製造ともに好転を見込む声と悪化を見込む声が拮抗しており、全体ではややプラスとなった。半導体分野では、一部に明るい兆しがあるとの声が聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、横ばい～増加の声が多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みの声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばいとの声が多い。先行きは好転見込みと悪化見込みの声が拮抗。

[企業からのコメント]

- ・受注状況は徐々に回復してきていたが、民需を中心に状況が悪化してきており、この先の販売高においては不透明感が出てきている。一方で、民間航空機事業は回復傾向にある。
- ・「原材料の単価は上昇しており、客先に対して売価に転嫁できるよう交渉している。また、人件費増額分も売価に転嫁する交渉を開始している」「製品価格については、逐次値上げ依頼を行っている」

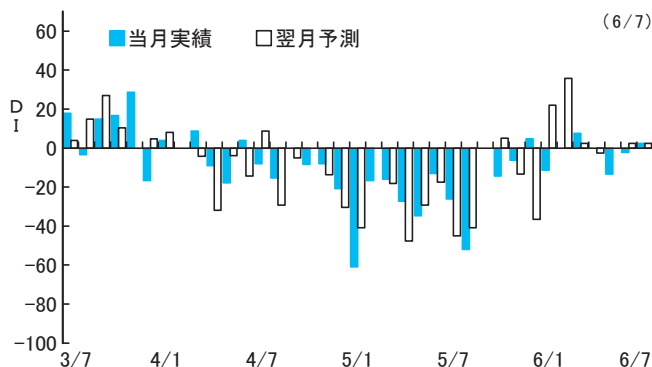
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 受注の前月比はすべての事業者でやや減少、販売は増加と減少の声が半々。受注の先行きは横ばい～増加。
- ☑景況感…… 当月の景況感は悪化～横ばいで、好転との声はない。先行きは横ばいを見込む声が多い。

[企業からのコメント]

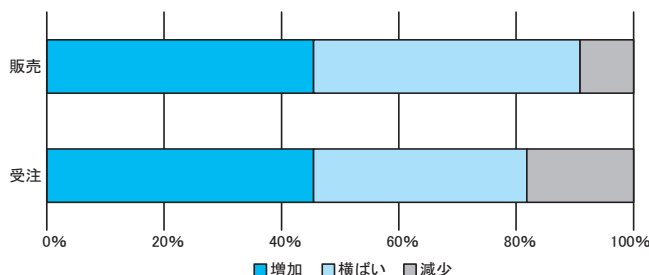
- ・「受注残は前月と比べると誤差範囲の微減だが、需要が大きく落ちていないことから回復基調の判断をしている。2025年明け以降の話が出始めており、今後受注残は上昇傾向となる見込み」「当社取引先に限った話だが、若干の回復の兆しを感じる。スポットではあるが2件のまとまった注文があり、これを回復の糸口としたい」
- ・「世界の半導体製造装置市場は、2024年に過去最高を更新する予測となっており、2025年にはそれを上回る規模となる予測となっている。半導体前工程が動き出しており、後工程は半年遅れて2025年春先以降から本格回復に向かう予測となっている」「半導体産業においては北米の大手メーカーの設備案件が軒並み先送り傾向にあり、本格稼働は早くても年明けとなりそうな状況」「業界によるが同業（半導体製造装置メーカー関連）でも格差が激しい」
- ・「市況が改善され始めた場合を想定すると、人員確保は必須となる。現在余剰人員はいないため、常時募集をかけている状態。本年度の設備投資は予定通り実行し、来年に向け準備をしている」「新規導入や入替の検討を行っている」

飯伊地区景況DI（製造業）

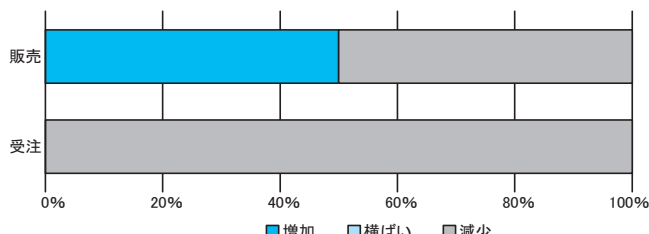


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…景況に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。「先月と比べて景況が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景況が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合

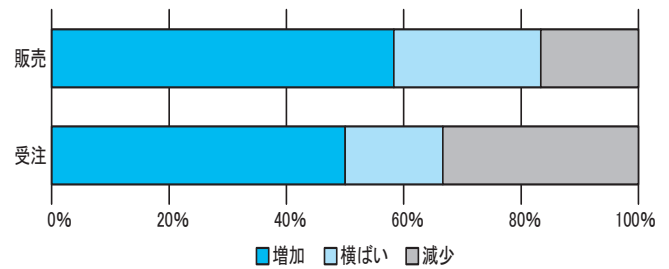


●産業機器、医療機器向け等機械部品

☑受注、販売… 販売、受注ともに、業者により増減分かれるが、増加の声が多い。先行きについては、受注は増加見込みの声が多く、販売は増加見込みの声と減少見込みの声が拮抗している。

☑景況感…… 当月は好転との声がやや多い。次月以降は、横ばい見込みとの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



[企業からのコメント]

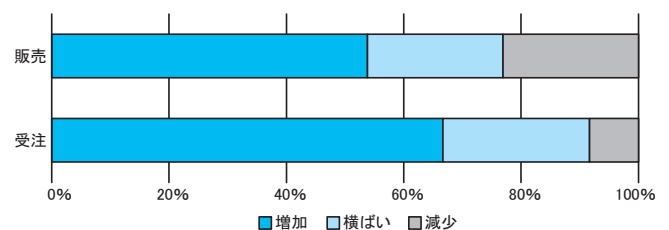
- ・「産業機器部品関連は、中国市場からの受注が増えている。車輛関係部品は、中国市場向け車輛の販売不振・減産の影響があり、生産調整が入っている」「7月に入って、材料屋からも仕事量が減少してきたとの声を聞く」「航空・宇宙・防衛産業は今後も伸びていく予想となっているが、他の産業の動きが鈍くなったと感じる」
- ・自動車開発については、アメリカ大統領選挙の行方を見守っている状況で、良くも悪くも変化が少ないと思っている。
- ・「人件費の値上がりで、生産性向上などを急がなければならない」「今後の人手不足に対応するための設備投資を行い、生産体制の強化を図る」

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

☑売上…… 漬物の前月比は業者により増減分かれる。菓子の前月比は増加との声が多い。先行きについては、増加見込みと減少見込みの声が拮抗。

☑景況感… 当月は好転したとの声がやや多い。先行きは業者により見方が分かれる。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「物量は全体的に増加している」「夏休みになり観光客など増加傾向であるが、以前の様に観光バスが多くなく、購買力は落ちている。南信地区にはインバウンド客は見受けられない」「既存取引先について、軒並み昨年対比で売上が下がっている。様々な商品が値上げしている事から、嗜好品に対する出費を抑える傾向にあると推察している」「食料品への節約志向は日に日に増している傾向が窺える。国内の需要の上限が見えたので、海外需要への生産ヘシフトが増えてきている」
- ・「暑すぎて、熱中症等事故が起きないか不安な毎日。機械も古くなり対応に悩む」「猛暑の影響が出そうで、心配」「猛暑の影響で販売は停滞している。野菜も影響を受けており、非常に不安定な作柄となっている」
- ・「原材料価格が高騰していることから値上げを検討しているが、先行きの見通しが中々つかないため、値決めに苦慮している」「価格の見直しを行う予定先と、現状維持のところがあり、足並みが揃わない」
- ・盆前の出荷集中で、運送会社の倉庫がパンクして集荷してくれない状況になりそうだった。

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

☑売上… 前月比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

- ・「受注額は期首目標通り順調に推移。取引先の多くは対前期受注額を上回っている。反対に、販路を失い大幅に減少した取引先も見られる」「1年の中でも7月が売上減少する月で、今年も前年対比で減少」
- ・生産力強化・残業時間短縮のため、人材（人財）募集を行い数名を増員。また、作業環境改善（酷暑対策等）の検討も行う。

●上記以外の製造業

☑建築用金属製品… 販売は前月比で横ばい、前年比ではやや増加。景況感はやや悪化で、先行きもやや悪化見込みという。

☑自動車向け部品… 販売は前月比で横ばい。景況感については大きな変化はないという。

☑印刷…… 販売は前月比では減少、前年比はやや減少。

[企業からのコメント]

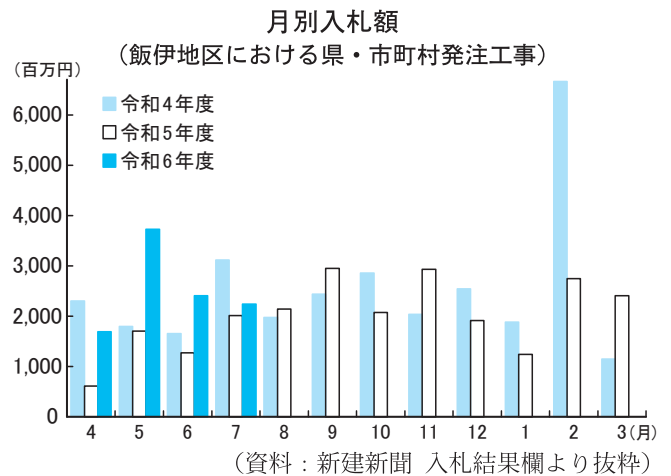
- ・ゼネコンの職員不足、現場の完全週休二日制等により、建築現場はどれも工事が遅れている。建築資材の高騰、労務不足の影響で、再開発以外の新規の建築案件がかなり減っている。来年度、再来年度の物件が少なくなりそうのため、計画的に先を見据えた受注を行っていく。
- ・刷版材料に対し、大手メーカー2社が10月より値上げを発表。当社の仕入れ業者も値上げは時間の問題となりそう。他にも、投票用紙や選挙ポスター等の紙について10月から値上げの通告あり。
- ・印刷業において業務を縮小する会社もあれば、新設備導入や新たな設備更新を行う勢いのある会社もあり、状況は様々。県内では廃業やM&Aの話も聞こえてくる。

建設業

官公需

概況 7月の公共工事入札金額は前年比で11.4%増加、一昨年比では28.2%減少

- ☑公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約22.4億円（8月15日調査時点）。前年に比べ11.4%増加、2年前との比較では28.2%減少。
- ☑受注残高…………… 当月、先行きともに業者により増減分かれる。景況感は、当月、先行きともに悪化～横ばいで、好転との声は聞かれなかった。
- ☑原材料価格…………… 当月は横ばいと上昇の声に分かれるが、先行きについてはほとんどの事業者が上昇を見込むという。下降との声はなかった。



[企業からのコメント]

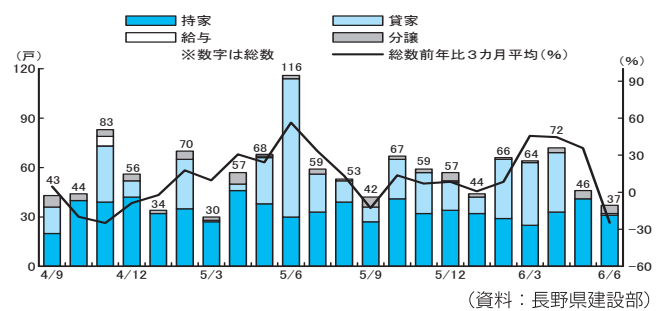
- ・「前年同月に比べ受注金額は伸びている。本年度の黒字化を目標に、受注に取り組みたい」「現在、自社の施工能力分の工事量はある。年末～年度末にかけては新規の受注が必要」「工事単価については、年度末までは変わらない見通し」
- ・今年梅雨が短く、現場作業にそれほど影響もなく良かった。梅雨が明けてからは、猛暑が続き熱中症対策を心がけている。
- ・「業務量はあるが、技術者が不足」「今後は若年の従業員を増やすように意識して取り組みたい」「技術者は通年で募集を続ける」「人員対策として、休憩所やトイレの補修等を行う」
- ・「骨材は今後さらに値上げの方向」「生コン、合材などが上昇」

民需

概況 令和6年6月の住宅着工戸数は37戸で前年比68%減少。持家は横ばい、分譲は増加も、貸家が大きく減少し、2か月連続で前年比マイナス

- ☑住宅着工戸数… 当地区の6月の住宅着工戸数は37戸。前月比20%減、前年比では68%減。持家の戸数は31件で前年（30件）からほぼ横ばい。貸家が1件で前年（84件）から大きく減少。分譲は5件で、前年（2件）から増加。
- ☑景況感…………… 当月は悪化～横ばいとの声が多く、好転したとの声はなかった。先行きは横ばい見込みとの声が多い。

飯田市・下伊那郡 住宅着工戸数の推移（用途別）



[企業からのコメント]

- ・飯田下伊那地域を見ると土木工事は堅調。建築工事、民間設備投資は弱い。
- ・民間の建築物件は相変わらず労務単価の反映、法定福利費等の経費支払いに難色を示す。

建設資材等

概況 7月の生コンの売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。骨材は前月比、前年比ともに増加

- ☑生コン … 売上は前月比、前年比ともに業者により増減分かれるが、増加との声はやや多い。
- ☑骨材 … 売上は前月比、前年比ともに増加。

[企業からのコメント]

- ・当月の生コンの主な出荷は、リニア関連工事、三遠南信工事、病院・マンション建設等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の約4割。
- ・「リニア関連現場へのお荷がある程度あったため、売上が確保できた。一般建設工事需要は非常に少なく、もしリニア需要がなければどうなっていたのだろうか」「リニアの工事が動き出して、売上増加」「下伊那全体的に出荷量が落ち込んでいる」「生コン各社によって担当しているリニア取引先の需要がまちまちで、7月は各社間で出荷量の開きが大きく、その影響は各骨材会社へ影響している」
- ・業界の課題として、リニア需要への責任供給および利益を確保できる適正価格取引の実行があるが、どちらも理想通りには進んでいない。ただ、リニア先直納の骨材は売り手市場になっており、利益獲得には大きくプラスに働いている。

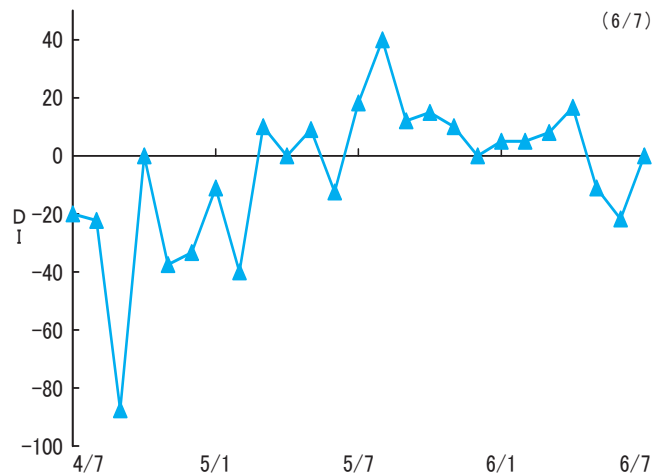
概況 景況DIは前月から改善。小売業、卸売業の一部で景況感好転の声

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）は0.0で、前月から21.7ポイント上昇。

今月は小売業、卸売業の一部で景況感が好転したとの声が聞かれた一方、宿泊業では前月に続いて景況感が悪化したとの声が多い。昼神温泉ではスキー場のゴンドラ故障が復旧し、徐々に客足が戻ってきたとの声もあるが、約半年間の稼働停止の影響は大きかったとの声もあった。飲食業では、業者により景況感の見方が分かれた。また、猛暑の影響によって卸売業の一部からは売上増加の声があり、一方で飲食業の一部からは売上減少との声が聞かれた。

次月以降は、8月の観光シーズンを控え、景況感好転を見込む声がやや多い。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。先行きについても同様

☑売上 … 前月比、先行きとも業者により増減分かれる。

☑景況感 … 当月は業者により見方が分かれる。先行きは横ばいとの声が多い。

[企業からのコメント]

- 野菜については地元産品が出回り、スーパーの野菜売上は低下。食肉・水産については、売上は増加傾向。
- 猛暑の影響で、夏物衣料の売上は堅調に推移。

●卸売業 概況 売上の前月比は増加との声が多い。景況感は横ばいの声が多いが、一部に好転の声も

☑売上 … 菓子、青果、食肉、電設資材の売上が前月比やや増加。

[企業からのコメント]

- 野菜は、今年も夏場の価格が高値で推移しており、取扱量は昨年比減少も売上は増加。特に白菜は昨年比で入荷、売上ともに好調。夏休みに入り家庭需要も増える時期であり、来月にも期待。果実は、旬の桃は前進出荷傾向で甘みが強く、高値で取引された。スイカの動きも良く、入荷、売上ともに昨年比で増加。今年は果実全般に出荷が早く、これからの夏、秋に向けて期待が持てる。
- 猛暑となり、季節商品（エアコン関連商材）の引き合いが多く、売上・受注ともに増加。ただ取付工事業者の不足もあり、すべてを受け入れられない状況。また、銅ベースの価格下落により仕入単価は電線類を筆頭に落ち着いてきた。ただ以前仕入れたベースの高い時期の商品在庫もあり、価格調整が難しいところ。
- 猛暑により、鶏が死亡する数が増え、出荷量に影響している。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業で業者により増減分かれる。

景況感は、飲食業では好転、悪化の声が拮抗。宿泊業では悪化との声が多い

☑売上 … 飲食業、宿泊業の前月比は業者により増減分かれる。運輸業は前月比、前年比ともやや増加。

[企業からのコメント]

- 「7月は宴会が少なかった。毎年7月は少ないが、景気は良いとは思わない」「暑さ、コロナやその他の感染者数の増加、物価高等で動きが鈍化している。今後が見通せない」「外食か内食かで二極化が進んでいる」「毎日とにかく暑く、来店客が少ないと感じる」
- 「8～9月は3連休があり、祭りや地域のイベントなどにより宿泊予約が好調」「7月20日からナイトツアーが始まり、若い方々がやっと温泉へ足を運んでくれるようになった」「ヘブンスそのはらのゴンドラが稼働され、8月の予約は入り出してきたが、今まで約半年間の休業は売上に大きく影響した」「キャンプの準備をして宿泊に来る人が増加している。ツアー客でもクーラーボックス持参の人が増えてきている」
- 今後、人口減少が続く中でインバウンドに対する積極的な取組をしていかないと宿泊業界は厳しくなってくる。インバウンド対策は行政、事業者、地域単位で取り組まないとできない。
- ライドシェアのサービスが全国で始まっているが、都会と地方では環境が若干異なる。南信州では、まずは乗務員の確保を最重要課題として取り組み、各自治体と協力して当地域から公共交通がなくならないような対策を講じていく必要がある。

中津川市の現状とリニア新幹線 ～ リニア新幹線駅と地域づくり・まちづくり～

飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所

当研究所ではリニア新幹線沿線の各駅予定地地域について、新幹線建設の状況やリニア開通後を見据えたまちづくりなどに着目してきた。今回はその中で岐阜県中津川市を取り上げる。

同市は飯田市と似た規模であり、リニア岐阜県駅には隣接して乗り換え駅（中央本線美乃坂本駅）が存するものの、市中心部から離れて（約7km）おり、まちづくりの上で当市と同様の課題を抱えると思われる。

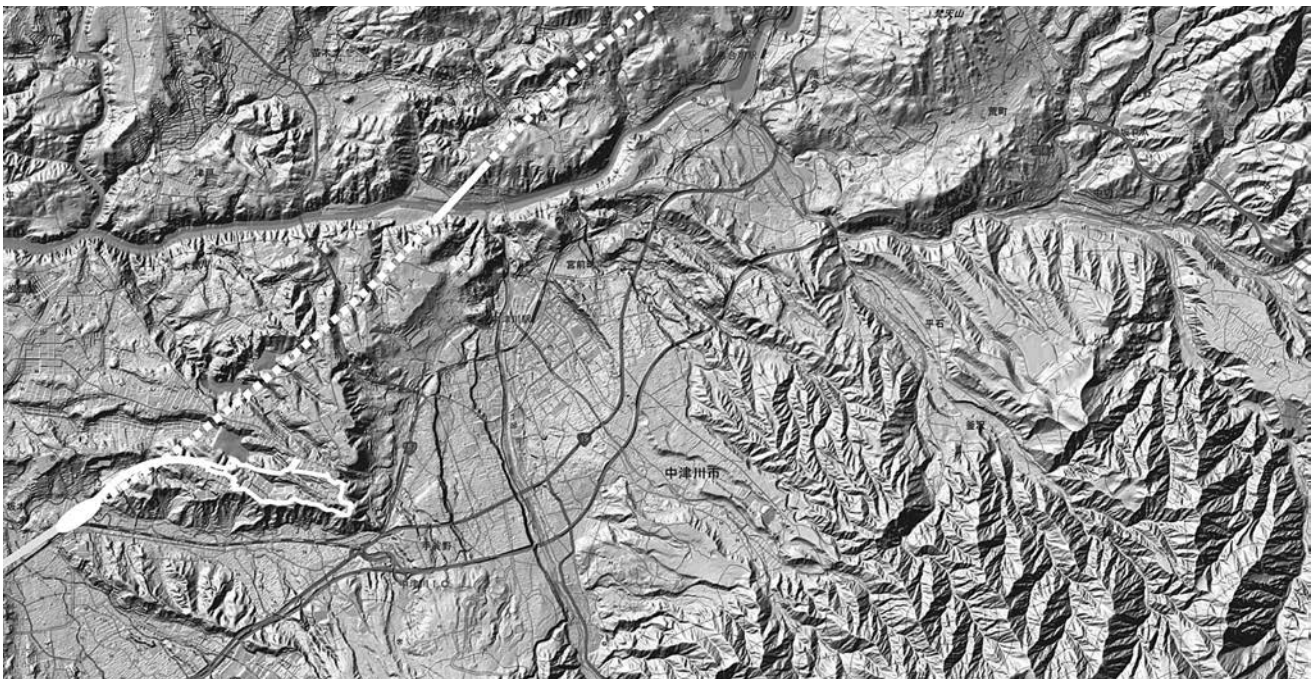
1 中津川市の現況

(1) 中津川市の地理的条件

中津川市は、岐阜県東濃地域（中津川市のほか、多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市の5市で構成）の中で最も長野県寄りに位置する、人口74千人（令和6年7月末）の市である。1952（昭和27）年に市制施行。その後の周辺町村との合併を経て市域は拡大し、当地域とは阿智村と県境で接する。

市の中心部の状況は下図の通り。市中心部から北側には断層状の丘陵部があり、木曾川によって深く下刻されている。中津川市内の南側は、恵那山など中央アルプス山系から南東－北西方向に中津川などにより平坦地（扇状地）が形成され、その上に市街地が展開している。この平坦地を北東－南西に国道19号線、JR中央本線、中央自動車道が通っている。リニア岐阜県駅もこの中の、中央本線美乃坂本駅に隣接して設置され、リニア新幹線は木曾川橋梁の前後丘陵をトンネルにより通過して駅に出入することになる。この丘陵地には、中部総合車両基地が設置され、リニア車両は岐阜県駅からの回送線によりこの車両基地に接続する。

中津川市 概略図



国土地理院陰影起伏図（同HP）にJR東海資料を基にリニア本線、中部総合車両基地等を追加

(2) 交通インフラ

中津川市は、江戸時代中山道の板橋宿から数え45番目の中津川宿として栄えた。中津川市域には43番馬籠、44番落合の3宿があり、中津川宿の次は46番大井宿（恵那）となる。中津川宿は旅籠や伝馬制度による交通・物流に加え、物資の集散地として商業が盛んになった。木曾の木材を中津川で加工して京都・大坂・名古屋など西へ販売

することや瀬戸物など陶器や塩などが中津川から木曾地方などに送られたという（「中津川市史」）。なお、当時中津川宿から落合宿、妻籠宿を経て妻籠、蘭、大平から飯田（飯田道）、もしくは蘭から清内路、駒場を通る道、または神坂峠を越える道により当地域との交流があった（「同」）。

中津川市に鉄道の駅ができたのは1902（明治35）年。中央本線がそれまでの名古屋・多治見間から延伸して開業。中津川駅は駅・機関区・保線区などを擁する一大拠点駅となった。戦後、中央本線はディーゼル化、複線・電化（1968（昭和43）年）が進められ現在に至っている（「同」）。現状中津川駅から名古屋駅へは特急（しなの）で57分、快速で約1時間10分で行くことができる。

当地域との交流でエポックとなるのは中央自動車道の開通であろう。1972（昭和47）年の小牧JCT～多治見IC間に続いて、1975（同50）年中津川～飯田～駒ヶ根間が開通した。1985（同60）年には恵那山トンネルが4車線化している。これにより両市は30分圏内の交流圏となっている。

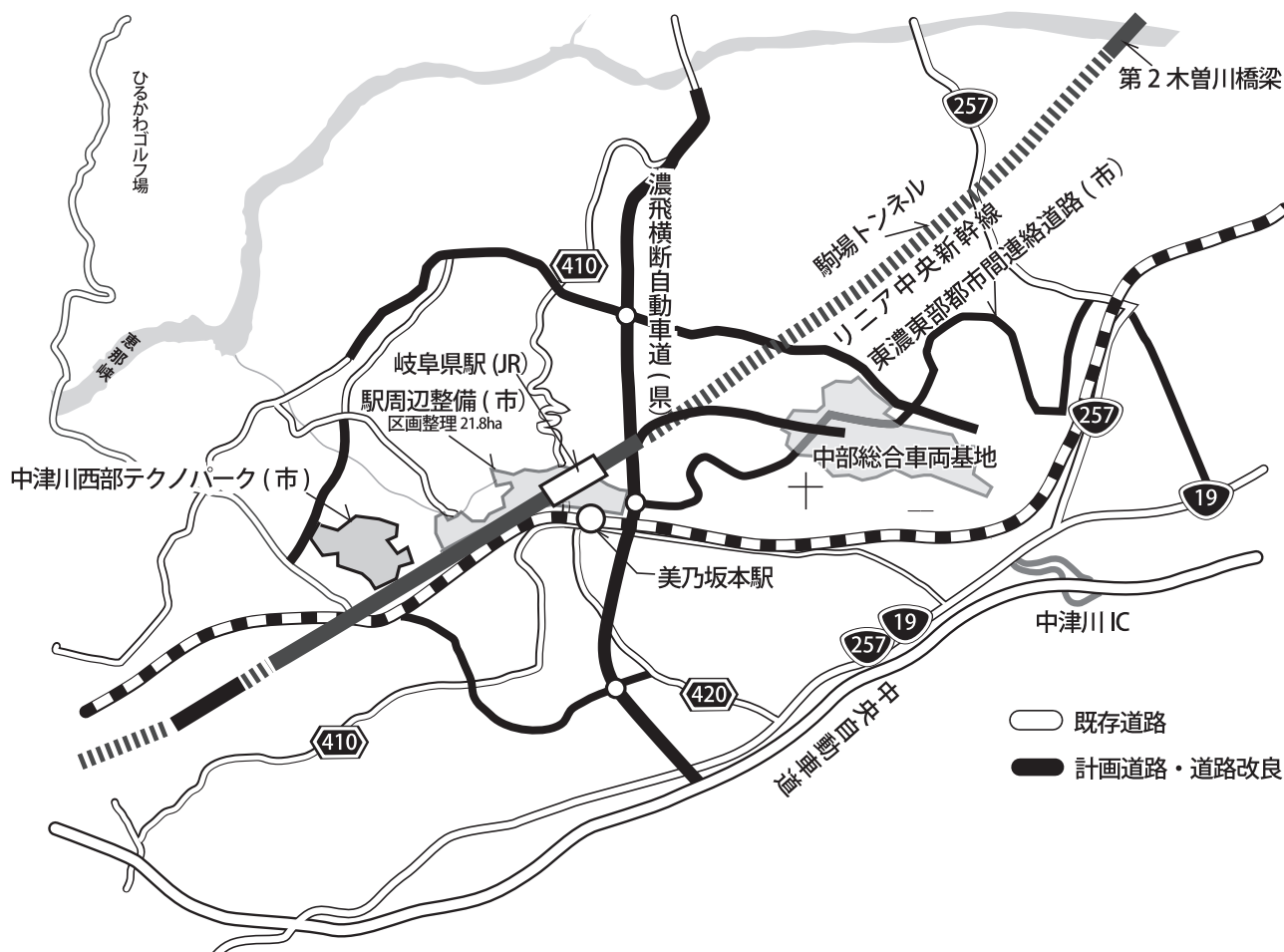
(3) 中津川市の産業

前述の中央線開通と共に中津川市工業の近代化が始まった。明治39年に木曾方面や周辺の豊富な森林資源と良質な水に注目して中央製紙(株)（現王子エフテックス中津工場）が操業開始。オーミケンシ(株)が地場生糸業と協調して創業した。次の契機として、戦時中疎開工場として昭和18年三菱電機(株)中津川製作所が操業開始。終戦後もそのまま定着して金属機械加工を主体とした工業群が形成された。中央自動車道の開通が中京圏・近畿圏との関連が強まったことを背景に中津川中核工業団地の分譲を開始（昭和63年）して企業誘致が進められた（中津川市HP）。中津川市の製造品出荷額等は約3,543億円で岐阜県内5位（平成29年工業統計）となっている。（同）

(4) リニア、同関連事業の状況

中津川市のリニアおよび関連事業の概況については、当研究所『飯伊地区産業経済動向』No.516（令和4年3月）で概観したが、最近の状況についてまとめる。

リニア・同関連工事の概要（中津川市）



■ リニア岐阜県駅（JR東海）

駅躯体の基礎工事（ニューマチックケーソン）、高架橋の橋脚躯体工事が行われ、車両基地への回送線の橋脚が姿を現している。基礎工事等予定地全体で土工事が進められている。



リニア岐阜県駅

■ 中部車両基地（JR東海）

準備工事（測量、伐採）、仮設工事（仮囲い、工事用道路）、防災工事（防災暗渠工など）、先行盛土工などが並行して進められている。



中部総合車両基地

■ 自立式ガイドウェイ制作保管（中津川地区）（JR東海）

基礎部の掘削工、盛土工を実施。

■ 木曾川第2橋梁（JR東海）

仮橋設置工事を実施。

■ 駒場トンネル（JR東海）

非常口トンネルの施工ヤード工事。盛土工、擁壁工などが進められている。



濃飛横断自動車道茄子川地内

■ 濃飛横断自動車道（県）

千旦林地内、茄子川地内で橋梁下部工、上部工の工事がそれぞれ進められ、中央自動車道と岐阜県駅予定地とを結ぶ高規格道路の姿を現わしてきている。

■ 東濃東部都市間連絡道路（市）

令和5年7月に工事着手し、一部道路が出来てきている。当面はリニア関連工事の工事用道路として使用し、生活道路への影響を低減する。

■ リニア岐阜県駅周辺土地区画整理事業（市）

区画整理事業区域内では道路、街区の造成工事や排水路工事が進められているが、一部区域では上下水道等ライフラインの整備に着手している。（中津川市HP「リニア関連工事だより」）

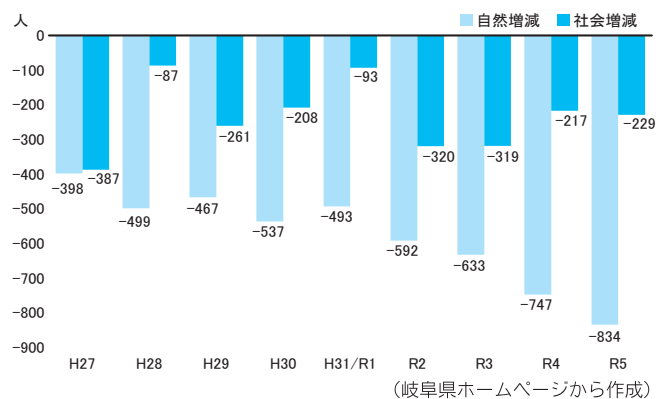
2 中津川市の人口変化の特徴

(1) 中津川市の社会増減の変化

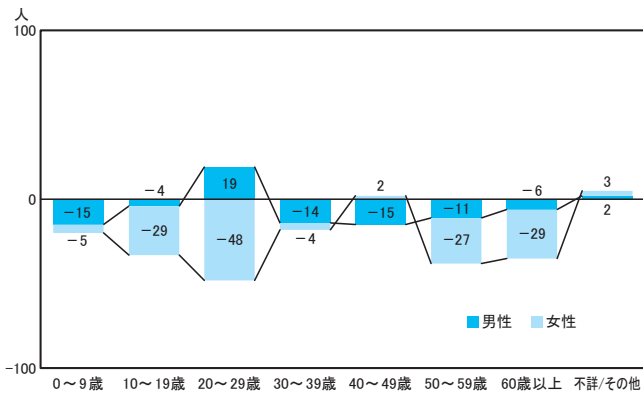
平成27年からの中津川市人口の自然増減と社会増減の推移は右グラフ1の通り。同市においては、平成13年から自然減の状況が続き、近年はその減少幅を拡大させている。社会増減については、平成の大合併によって現在のの中津川市となった平成17年以降は社会減が継続している。岐阜県では転出の理由についても調査しており、令和5年の社会減（229人）のうち、「職業上」の理由による社会減が139人、「学業上」の理由による社会減が55人となっている。

同市における令和元（2019）年と令和5（2023）年の社会増減を性別・年齢区分別（グラフ2、3）で比較してみると、令和元年は20代の男性が転入している以外は転出の方が多く結果となっているが、令和5年には30～40代の転入が多くなっている。また、どちらの期間も女性は転出の方が多く、特に10～20代の若年層や60歳以上の高齢世代が多くなっている。

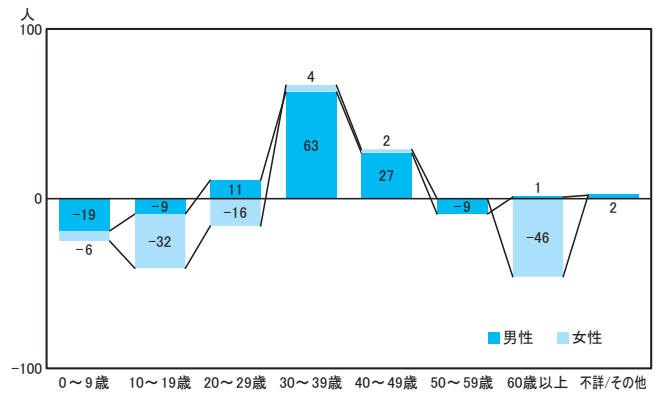
グラフ1 中津川市 自然増減と社会増減



グラフ2 性別・年齢区分別転入超過数 中津川市2019年



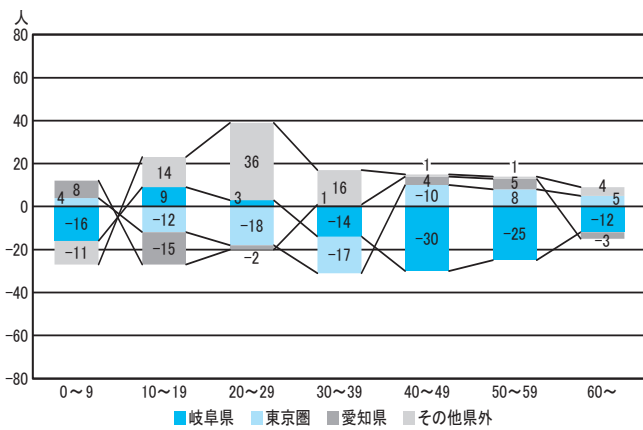
グラフ3 性別・年齢区分別転入超過数 中津川市2023年



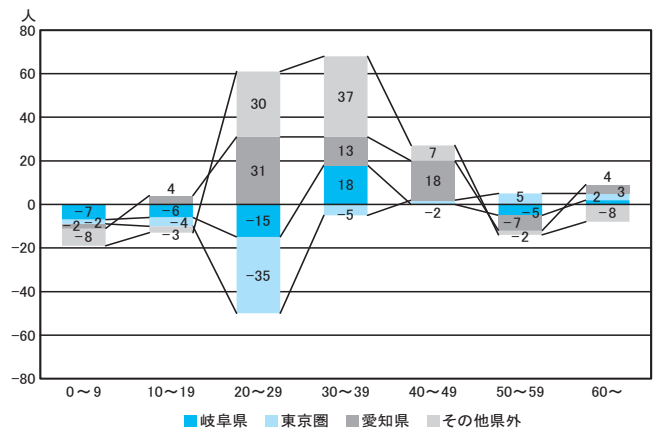
(グラフ2～3、総務省「住民基本台帳人口移動報告」から作成)

また、移動前後の住所地ごとに令和元年と令和5年を比較してみると、男性(グラフ4～5)では「20代の愛知県からの社会増は拡大したが、東京圏(1都3県)への転出は拡大した」「30代の、岐阜県、愛知県、その他県外からの社会増が拡大した」「40代～60歳以上の岐阜県内への社会減が縮小した」ことが分かる。女性(グラフ6～7)では、「20代の、愛知県への転出が転入へと転じた」「30代の、愛知県からの社会増が拡大した」ことが読み取れる。男女に共通するのは、東京圏への人口流出が続いている点である。

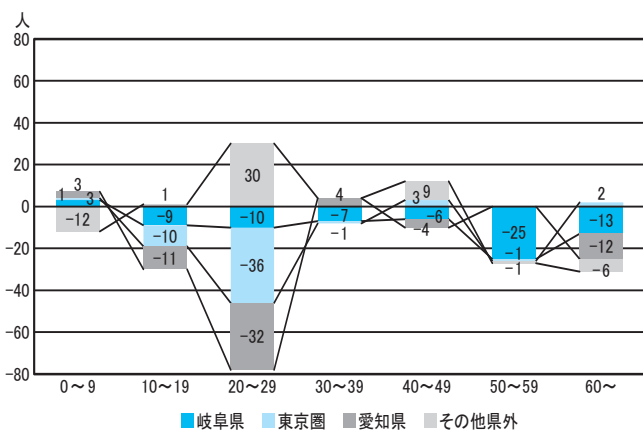
グラフ4 年齢区分別純移動数 中津川市男性2019年



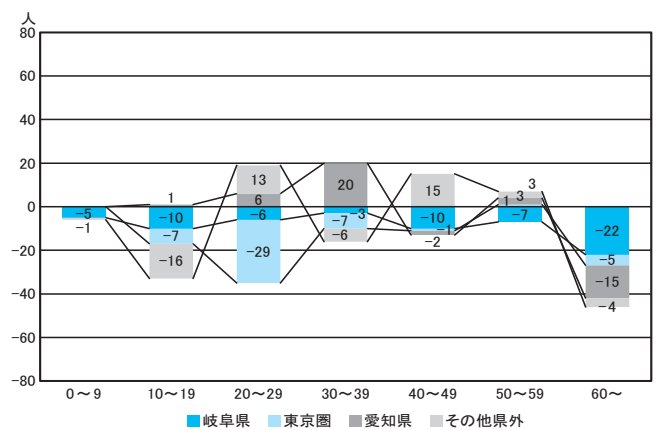
グラフ5 年齢区分別純移動数 中津川市男性2023年



グラフ6 年齢区分別純移動数 中津川市女性2019年



グラフ7 年齢区分別純移動数 中津川市女性2023年



(グラフ2～3、総務省「住民基本台帳人口移動報告」から作成)

また、中津川市には4年制の大学は1つ(中京学院大学)があるだけだが、10代の社会減は飯田下伊那や昨年調査した佐久市などと比較しても少ない水準である。この要因については前述の通り、JR中央本線で中津川駅から名古屋駅まで短時間(特急で1時間程度、快速電車で1時間10分程度)および安価(快速電車1,340円、特急電車2,870円)に通学できる環境が影響しているものと考えられる。

(2) 中津川市とリニア中間駅設置自治体の男女比率

また、グラフ2、3を見ると、男性については社会増となっている世代もあるが、女性については社会減となっている世代が多いことに気づく。これについては、中津川市の経済活動において製造業が占める割合が大きいうことが影響しているものと推察される。

グラフ8では、リニア中間駅が設置される飯田市、中津川市、甲府市の3市の業種別付加価値額（企業単位）の比較をしているが、飯田市、甲府市、全国と比較しても中津川市の製造業の占める割合は際立って高い。

前述の通り、中津川市は岐阜県内でも製造品出荷額等が高いまちとして知られ、三菱電機(株)中津川製作所や王子マテリア(株)中津川工場など、中心市街地に近いところに大手企業の事業所が立地しており、市内周辺にはその下請け企業が広がっている。

総務省の「労働力調査」によれば、製造業における女性就業者の比率は3割程度となっており、製造業が盛んである地域ほど、女性人口が少なくなるという仮説が成り立つ。

この点について国勢調査(2020年)で確認すると、20～59歳では男性の方が1,210人、率にして7.5%、子育て世代となる25～39歳では男性の方が625人、率にして12.3%多いという結果となっており、飯田市、甲府市、全国と比較しても高い水準であることが見て取れる。

地方から、特に首都圏への女性の人口流出は全国的に指摘されている現象ではあるが、中津川市の場合は製造業が盛んであることで男性の流入が起これ、男女比の拡大が起きているように見受けられる。

以上、いくつかのデータから中津川市の人口動態について確認したが、自然減と社会減が長年続いており、人口減少が進んでいるという点では当地域と共通している。ただ、大手製造業が立地する特徴的な産業構造、名古屋方面に短時間・安価でアクセスできる利便性の高さによって、当地域とは異なった社会移動が起きている地域であると考えられる。

中津川市も、市の総合計画の中で、リニア開通がもたらす効果などによって人口減少を緩やかにする目標を打ち出しており、当地域と同様にリニア開通効果への期待は大きい。中間駅の設置されるこの中津川市や、山梨県甲府市との競合という観点も、今後のリニア開通を見据えた上では必要になってくるものと思われる。

3 中津川市から他自治体への通勤・通学状況

(1) 他自治体への通勤状況

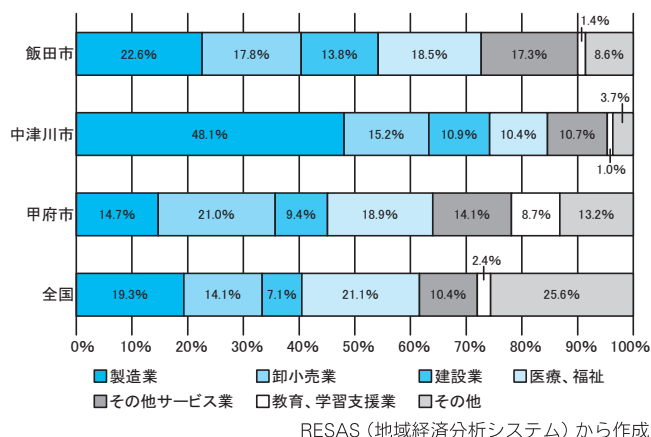
中津川市から名古屋方面へはJR中央本線でのアクセスが容易であることは既に述べたが、ここでは国勢調査(2020年)の「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」から、中津川市からの通勤状況について、飯田市との比較で確認する。

中津川市と飯田市の他地域への通勤状況

	15歳以上 就業者(人)	他市区町村で 従業(人)	他市区町村への 通勤率(%)	他の県で 従業(人)	他県への 通勤率(%)
中津川市	38,383	6,765	17.6%	1,570	4.1%
飯田市	51,537	7,126	13.8%	281	0.5%

(総務省「国勢調査」(2020年)から作成)

グラフ8 リニア中間駅設置自治体 業種別付加価値額
(企業単位)の割合2021年



リニア中間駅設置自治体 20～59歳 男女比率

	男性(人)	女性(人)	男性/女性(%)
飯田市	21,339	21,031	101.5%
中津川市	17,301	16,091	107.5%
甲府市	45,255	42,879	105.5%
(参考) 全国			101.9%

リニア中間駅設置自治体 25～39歳 男女比率

	男性(人)	女性(人)	男性/女性(%)
飯田市	7,012	6,739	104.1%
中津川市	5,708	5,083	112.3%
甲府市	13,920	13,351	104.3%
(参考) 全国			103.2%

(総務省「国勢調査」(2020年)から作成)

中津川市では、他市区町村で従業する人が15歳以上就業者のうち17.6% (6,765人) となっており、飯田市 (13.8% (7,126人)) と比較して3.8ポイント高い。このうち、最も多いのは隣の恵那市 (3,768人) であり、他市区町村での従業者の半数超を占めるが、その一方で愛知県での就業者が978人おり、それを含めて県外で従業する人が4.1% (1,570人) となっており、飯田市との比較でその差が大きくなっていることがわかる。ちなみに飯田市から他市区町村へ通勤している人のうち、約8割は下伊那郡13町村への通勤となっている。

(2) 他自治体への通学状況

続いて、中津川市からの通学状況について確認する。

中津川市と飯田市の他地域への通学状況

	15歳以上 通学者 (人)	他市区町村へ 通学 (人)	他市区町村への 通学率 (%)	他の県へ 通学 (人)	他県への 通学率 (%)
中津川市	3,081	1,244	40.4%	451	14.6%
飯田市	3,680	654	17.8%	185	5.0%

(総務省「国勢調査」(2020年) から作成)

中津川市では、他市区町村へ通学する人が15歳以上通学者のうち40.4% (1,244人) となっており、飯田市 (17.8% (654人)) と比較して22.6ポイント高く、通勤者よりもその差が大きい。通学でも、最も多いのは隣の恵那市 (412人) であるが、他市区町村への通学者の3分の1程度である。一方で愛知県への通学者は369人で、それを含めて県外へ通学する人が14.6% (451人) と7人に1人程度となっており、大学生などがJR中央本線を利用して名古屋市を含む愛知県内へ通学している様子が窺える。ちなみに飯田市から他市区町村へ通学している人のうち、45.4%が下伊那郡13町村への通学となっており、これらの多くは飯田下伊那地域の高校へ通っている生徒であると考えられる。

(3) リニア開通後の飯田下伊那地域の通勤・通学

中津川市は飯田下伊那地域と隣接しているが、通勤・通学の状況については大きな差があることが数字の上からも明らかとなった。この通勤・通学が容易に行えることが、特に10代における人口流出を抑えている要因であるといえるだろう。中津川市では「中学生のうちから名古屋市の学校へ通学する生徒もいる」(談・中津川商工会議所) とのことであり、それだけ愛知県、名古屋市への心理的な距離が近いという印象を受けた。

現在において、飯田下伊那地域から他県への通勤・通学はハードルが高いと言わざるを得ないが、リニア開通後には現実的な選択肢として中京圏もしくは首都圏への通勤・通学が考えられるようになる。在来線とリニアの料金体系の違いは一つのハードルではあるが、中京圏・首都圏で家賃を払うよりもリニアで自宅から通勤・通学したほうが経済的メリットを受けられるケースも出てくると考えられる。

リニア開通後の飯田下伊那地域の人口動態については、さらに流出が進むのか、それとも流出に歯止めがかかるのか現時点では不明であるが、中津川市の状況を見る限り、少なくとも他県への通勤・通学においてはプラスに働く可能性が十分に考えられる。通勤・通学時におけるリニア駅へのアクセス、リニア降車後の乗り換え、リニアの定期券の有無と定期代など、考えられるハードルは多々あるが、他県への通勤・通学という選択肢が増えるだけでも当地域にとっては今までにない大きなメリットであり、この点については前向きに捉えてまちづくりの方向性を考えていくべきではないか。

4 おわりに

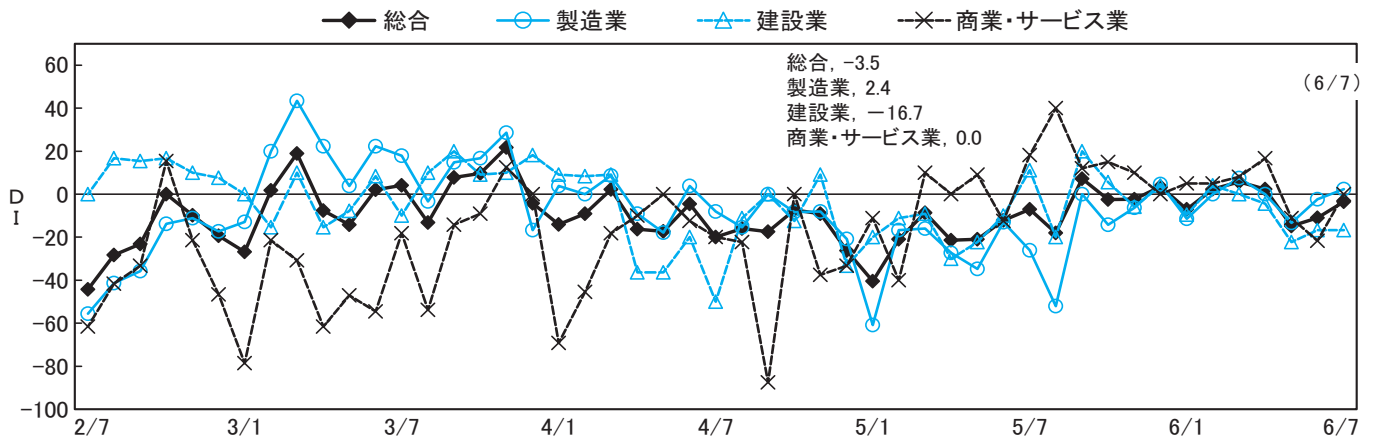
以上、中津川市の現状や人口動態等について紹介した。人口減少については当地域と共通するところではあるが、通勤・通学状況で紹介した名古屋方面へのつながりの強さから、当地域とは明らかに異なる様相の地域であるとあらためて感じた。

本文では紹介できなかったが、中津川市には旧・中山道の宿場が3つ(中津川宿、落合宿、馬籠宿)あり、それを目当てに欧米からのインバウンドが多数来訪しているとのことで、観光分野で東濃地域の各市と連携を行っているとのことであった。現在、当地域にはインバウンドはそれほど来訪していないが、観光分野における対応については県をまたいだ連携も重要になってくると思われる。リニア開業までは10年以上かかると思われるが、この時間を有効に活用して、リニア沿線地域同士の連携を深めていくことが必要ではないかと考える。

最後になるが、今回ご多忙のなか視察対応をいただいた中津川市様、中津川商工会議所様には深甚の感謝を申し上げます。

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上)	県内	8件	(前月 10件)	(前年同月 7件)	(前々年同月 3件)	(令和元年同月 5件)
	飯伊	0件	(前月 0件)	(前年同月 2件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 0件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (6月)		37戸	△ 19.6 %	△ 68.1 %	△ 43.9 %	△ 35.1 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (6月)		1.33倍	(前月 1.32倍)	(前年同月 1.56倍)	(前々年同月 1.46倍)	(令和元年同月 1.40倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,193台	7.7 %	3.4 %	18.3 %	△ 19.8 %
	中古車	777台	3.3 %	11.0 %	5.1 %	△ 2.9 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (6月)	新車	3,544台	19.8 %	△ 1.0 %	△ 1.7 %	△ 18.0 %
	中古車	1,134台	△ 13.8 %	△ 8.5 %	△ 4.7 %	7.1 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	99,578台	6.9 %	△ 1.3 %	6.5 %	△ 13.9 %
	出	101,136台	8.0 %	△ 2.4 %	5.2 %	△ 14.0 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	56,677台	6.4 %	△ 8.8 %	△ 1.4 %	△ 28.4 %
	出	54,908台	5.5 %	△ 7.7 %	△ 0.5 %	△ 27.6 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	14,344台	△ 3.0 %	△ 21.8 %	△ 25.1 %	11.5 %
	出	10,456台	50.7 %	△ 29.1 %	△ 34.4 %	△ 21.0 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	52,785台	5.6 %	1.8 %	23.6 %	29.3 %
	出	55,511台	△ 2.2 %	5.2 %	20.1 %	38.7 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	44,137台	6.1 %	7.7 %	25.1 %	- %
	出	45,055台	7.4 %	15.6 %	30.3 %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		114件	△ 35.2 %	△ 13.0 %	4.6 %	△ 30.1 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		10件	(前月 1件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 0件)	(令和元年同月 3件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	21,169人	12.0 %	2.4 %	50.3 %	△ 19.5 %
	飯田～名古屋	13,028人	5.7 %	△ 4.2 %	24.8 %	△ 29.0 %
	飯田～長野	3,748人	△ 9.1 %	△ 6.2 %	5.2 %	△ 60.2 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	17,985人	10.8 %	4.1 %	83.1 %	△ 16.7 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,169人	3.7 %	20.4 %	20.6 %	△ 16.1 %
	右回り	3,205人	3.6 %	15.2 %	19.5 %	△ 11.6 %